

地方公共団体	志布志市
所在地	鹿児島県志布志市有明町野井倉1756番地
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	<p>使用済み紙おむつの再資源化施設から発生する廃プラスチック類と、最終処分施設において埋立処分している廃棄物のうち、可燃性のものを集めて固形燃料化する。熱量の調整のため、カーボンニュートラルである廃木材などを混合して燃料を製造する。</p> <p>これにより固形燃料化を行い、化石燃料代替燃料として利用することができれば、最終処分施設の延命化、リサイクル率の向上、化石燃料の運搬・精製などに伴うエネルギー消費の節減などが期待できる。</p>
地域の現状・課題	<p>2020年度稼働を目指して、日本初の使用済み紙おむつのマテリアルリサイクルプラント整備事業を進めているところであり、再生パルプを取り出して、再資源化するための技術は概ね確立できたところである。</p> <p>しかし、この再生過程において発生する、紙おむつの表面カバーやテープなどの廃プラスチックについては、現段階で再利用の目途が立っていない。</p>
地域が持つ資源	<p>使用済み紙おむつの資源化過程において発生する廃プラスチック。</p> <p>最終処分施設に埋め立てている可燃物。</p>
取組内容	<p>固形燃料を安定的に供給、品質の安定性・安全性の検討。焼却施設を作らず、可能な限り再利用するという地域作りを進めている。焼却施設を持たないため、リサイクルできないものについては埋立処分を行っている。この中に固形燃料化により資源化が可能なものが概ね2/3含まれており、使用済み紙おむつの再資源化過程から出る廃プラスチックとともに固形燃料としてリサイクルを行い、再資源化率95%までの向上を目標とする。</p>
地域循環共生圏を 実践することで想定 される効果	<p>(環境)最終処分施設が満杯になると、新たな処分施設を作る必要性が生じ、山林等の自然を減少させることとなる。本事業が稼働した場合本市の最終処分施設の残余年数は100年以上になり、新たに自然を減少させることが長期にわたって必要なくなることとなる。</p> <p>(経済)現在費用を掛けて埋立処分している一般ごみ(埋立ごみ)がRPFとして有価物になれば、事業収入が期待できるので、市財政に貢献できるのではないかと考える。</p> <p>(社会)最終処分施設への埋立量が大幅に削減できるため、施設の延命にも貢献する。現在でも年間に多数の視察者があり、今回の取り組みにより更に増加することが予想される。このことにより老朽施設の改築・延命化、地域資源の未使用廃棄など様々な問題となっている課題の解決手法として展開が期待される。</p>

